

森

森小学校だより

平成28年12月1日

学校だより NO.11



Keep a book close by.

手元に一冊の本を

11月30日会礼
校長の話より

新町の中田真一さんは、6年の健太さん、2年の真輝さんのおじいさんです。森小学校の子供たちのために本を贈りたいと、図書券を届けてくださいました。中田さんが8年間掛けて新聞に投稿を続け、掲載された記事のお礼に新聞社から贈呈された図書券です。図書委員会が、「森っ子が読みたい本ベスト10」のアンケートを実施しました。12月には図書室に、「中田さんの贈り物の本コーナー」ができます。みなさん、楽しみにしてください。

Keep a book close by. 「手元に一冊の本を」

4年生が国語で勉強している「ごんぎつね」の作者、新美南吉のことを話します。新美南吉は、今から100年あまり前、愛知県知多半島の半田という美しい山里で生まれました。南吉がまだ4歳のとき、お母さんが死



んでしまいました。そして、8歳でお母さんの実家にもらわれていきます。「僕はどうして、こんなつらい思いをしなきゃいけないんだろう。」とてもさびしい子供時代を送りました。一人ぼっちの「ごん」のようですね。

小学校のころの得意な教科は国語。読書家で作文が好きでした。苦手は体育。体が弱かったそうです。中学生になると、将来立派な文学者になりたいという夢を持ち、童話や童謡の創作に挑戦しました。

中学校を卒業した17歳で、母校の小学校の先生になりました。6月、新美先生は、「ごんぎつね」というお話を教室で子供たちに聞かせてあげました。わずか17歳の若さで「ごんぎつね」という名作を書いたのです。

その後、東京外国語学校へ進学しましたが、21歳で吐血し、体を悪くしていきました。「手袋を買いに」など童話をたくさん書きましたが、結核のため29歳の若さでなくなりました。

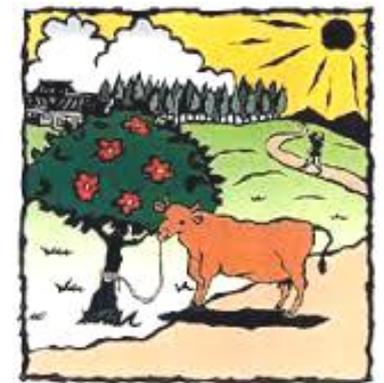
南吉は、牛やきつね、小鳥、でんでんむしなどの身近な動物のユーモアや悲しみを題材にして、「人はいかに生きるべきか」を語っています。

今日は、新美南吉の書いたお話をお話を短くお話ししましょう。

牛をつないだ椿の木

新美南吉

しんたのむねという山の道に、椿の若木がありました。牛引きの利助さんは、それに牛をつなぎました。人力引きの海蔵さんも人力車を置きました。二人は、水を飲みに春蝉が鳴き出した山へ入って行きました。「清水がもうちと、道に近いとええがのォ」戻ってみると、年をとった地主が自転車を止めて、かんかんに怒っていました。「やいやい、この牛は誰の牛だ？ 椿の葉をみんな食ってすっかり坊主にしてしまったに」利助さんはとんだことになったと真っ赤になって謝りました。海蔵さんも利助さんのために謝ってやりました。それきり二人は話もせず、村の方へ歩き出しました。



「しんたのむねに井戸があったらどんなにみんなが助かるか」海蔵さんは、先だって利助さんが、たいそうお金を儲けたことを思い出しました。「30円あれば、しんたのむねに井戸が一つほれるだかのォ。それだけ、利助さ、奮発してくれないかェ。」「おれだけがその水を飲むなら話はわかるが、ほかのみんな飲む井戸に、どうしておれだけがお金を出すのかのォ」そして、利助さんは岩のように黙ってしまいました。利助さんが、夜遅くまでせっせと働くのは、自分のためだということが海蔵さんにはよく分かりました。

しんたのむねの椿の木に賽銭箱がつるされていきました。「ここに井戸を掘って旅の人に飲んでもらおうと思います。志のある方は一銭でも五厘でも喜捨してください。」海蔵さんの仕業でありました。しかし、お札を見ても賽銭箱にお金を入れる人は誰もいません。結局、人は頼りにならないと海蔵さんは分かりました。「こうなったら、おれ一人の力でやりとげるのだ。」

仕事を終えた海蔵さんが、村の茶店に入って来ました。人力引きたちの楽しみは、お客を待つ間、店のお菓子をつまむことです。しかし、海蔵さんは、お菓子を食べません。海蔵さんの胸の中にはげんこつのように堅い決心がありました。「今までお菓子に使ったお金を貯めて井戸を掘ろう。」

それから2年が経ちました。井戸代30円はできたのですが、あの年を取った地主がしんたのむねに井戸を掘ることをどうしても許してくれません。見かねた息子さんが言いました。「家のおやじは体が弱っていて、そのうち私の代になりますから、そうしたら井戸を掘ることを承知しましょう。」海蔵さんは、2、3日の内に老人は死ぬにちがいないと、とても喜びました。

しかし、次の朝、海蔵さんは、老人の枕元に両手をついて深く謝ったのです。「わしは、自分の井戸のことばかり考えて、あなたの死ぬことを待ち願う鬼にも等しい心になりました。井戸のことはもうお願いしません。あなたは、どうぞ死なないでください。」老人は、海蔵さんの立派な心に動かされ、「どんな井戸でもどうぞ掘ってください。」と井戸を掘ることを許したのです。

村の方から行列が、しんたのむねを下りて来ました。行列の先頭は、兵士となった海蔵さんでした。椿の木まで来ると行列が止まり、海蔵さんは、新しい井戸の清水をうまそうに飲みました。「私は、もう思い残すことはないかや。こんな小さな仕事だが、人のためになることができたかのオ。」日露戦争の花となった海蔵さんは、帰ってきませんでした。しかし、井戸は今でもこんこんとわき出ているのです。

中田さんや新美南吉、海蔵さんは、みんなのためになることを考え、一人で行動する勇気と周りの人を思いやる優しさを持った人です。「One for All・・・一人はみんなのために」みんなのためになれる自分をめざし、12月も「仲良く きまりよく やりぬく」すばらしい森小学校にしていきたいと思います。

12月



行事予定



1日(木) B日課 持久走記録会

9日(金) B5日課

2日(金) 持久走記録会予備日

10日(土) PTA 親子しめ縄作り

委員会活動

14日(水) 読書の時間 集団下校

5日(月) B5日課 校納金振替日

15日(木) 安全の日 読書タイム

6日(火) B5日課

20日(火) 学年の集い・さわやかトーク

7日(水) B5日課

22日(木) A3日課・終業式

8日(木) B5日課

23日(金)～1月5日(木) 冬休み

森小応援団の皆様へ

新町の中田様より、チューリップの球根を多数いただきました。また、森小の近くにお住まいの鈴木様、藤江様には学校の正門の清掃や周りの草取りや落ち葉拾いをしていただき、いつも本当にありがとうございます。

持久走記録会に向けて、
一生懸命に練習してきました！



<カー杯走る子供たち>

子供たちは朝の運動や全校かけ足の時間を使って、自己の記録が伸びるよう一生懸命に取り組んできました。天候不順のため、校外での試走ができませんでしたが、校内練習をきちんと重ね、体調を整え、本番当日を迎えました。

大盛況！PTAバザー



<人々で大盛り上がりするバザー11.26(土)>

総務委員会の皆様を中心として、役員の方々が事前に話し合いを持っていただき、当日までに多くの準備をしていただきました。町の「町並みと蔵展」と重なったこともあり、保護者の皆様以外にも大勢の方が訪れて本年度も大盛況となりました。